



## 世界中のランドマークがティール色に染まる日

国立国際医療研究センター 国際医療協力局

連携協力部 展開支援課／連携推進課 医師 春山 伶

ティール色は、鴨の羽色に由来する美しい青緑色です。カナダ・ナイアガラの滝、フランス・パリ市庁舎、UAE・ドバイフレーム、トルコ・ボスポラス橋、インド・クトゥブミナール、日本では京都タ

ワーや大阪城など、世界中のランドマークがこのティール色にライトアップされる日があります。それは11月17日です。なぜこの日にティール色に染まるのか、ご存知の方はまだ少ないと思うので、少しご紹介したいと思います。

ライトアップが始まったのは2020年11月17日です。第73回世界保健総会での承認を受けて、世界保健機関（WHO）が「子宮頸がんの公衆衛生学的排除を加速するための世界戦略“Global strategy to accelerate the elimination of cervical cancer as a public health problem”」（以下、本世界戦略）を発行した日にあたります。本世界戦略は、子宮頸がんの公衆衛生学上の排除（年齢調整罹患率10万人当たり4人以下）を目指し、2030年までに、15歳女子のHPVワクチン接種完了率90%、35歳および45歳女性の子宮頸がん検診受診率70%、子宮頸部前がん病変・浸潤がんの治療率90%を目標とするものです。日本を含む全加盟国が目標達成に取り組むことを期待されています。史上初めて世界が団結して「がん」の征圧を目指すことを合意した記念すべき文書とも言われています。（策定の背景については、本誌2019年11月号の『子宮頸がんの排除に向けた世界的な動き』をご覧ください。）

ティール色はこの子宮頸がんのテーマカラーであり、発行日に合わせてランドマークのライトアップが世界中に呼びかけられました。子宮頸がんの征圧に賛同していれば、誰でも参加できるものです。私は、WHO本部出向中に本世界戦略の策定にゼロから携わった者として、日本が子宮頸がん対策に関して国際社会から取り残されてしまいそうで怖くて、



ライトアップされた京都タワー

